文學博士 島邦男編

殷墟卜辭綜類

汲古書院

文學博士 島邦男編

殷墟卜辭綜類

汲古書院

一九六七年十一月　初版発行
一九七一年　七月　増訂版発行
一九七七年　一月　増訂版第二刷発行

編者　島　邦男
発行者　坂本健彦
印刷所　汲古書院印刷所

東京都千代田区飯田橋二―五―四
発行所　汲古書院
電話（二六五）九七六四
振替　東京　一五八〇三五

©1971

3587－3500－1463

初版正誤表

頁	段	誤	正
二一	一	乙二〇六四（林二・二・一〇）	乙二〇六四（丙四四三）
四九	一	乙二二七四（合一八五）	乙二二七三（合一八五）
一〇六	二	乙七一二〇	乙七一二二
一二二	三	甲五四〇八	乙五四〇八（丙一一四）
二〇〇	二	乙七一八（合二四一反、丙七七、合二六四反、）	乙七一八（　）内削除
二〇九	二	丙三三	丙三
二一九	三	乙四二	乙四三
二九二	四	甲七八四三	甲七八三
三一〇	二	乙六七四六	乙六七四六反
〃	〃	乙六七四六反「[illegible]」	仝「[illegible]」
〃	〃	乙七三三六	乙七三三六反
三一一	一	乙七九七五	乙七九七五反
〃	〃	乙二二九六	乙二二九六反
〃	〃	乙七一二一	乙七一二二反
〃	四	乙三三〇六 六七六五	乙三三〇五 六七六五
三四九	二	合四八一（乙六六七二）	合四八一（丙二〇九）
三九一	三	乙三一九四	乙三〇九四
四二九	一	甲一一四七：[illegible]…[illegible]…[illegible]	仝 [illegible]
四六九	一	甲七八四三	甲七八三
四九八	四	甲一一三二 [illegible]	仝 [illegible]
五〇八	二	合四八一（乙六六七二 五九二〇）	合四八一（丙二〇九）
五一八	一	甲一一三二 [illegible]	仝 [illegible]
五二三	二	合一九五（乙三〇九四）	合一九五（丙一一七）
五二六	三	合四八一（乙六六七二）	合四八一（丙二〇九）

本書（増訂版）では、以上の箇所はすでに修正濟である。本文以外の修訂箇所は特に表示しないから、本書と對校されたい。

自序

劉鶚の鐵雲藏龜が、甲骨文字を世に紹介してから、すでに六十餘年、この間に甲骨文字の專書は百八十餘、論文は九百七十餘を數えることができる。學者は說文・經說・史書の訛失を正し、あるいは社會制度・祭祀禮制・曆法を明かにし、また、字釋を一段と嚴密にするなど、多彩な研究を行ってきたが、その研究の論著を讀むたびに、何か隔靴搔痒の感を覺え、眞僞相い半ばするの念を禁ずることができず、甲骨學の研究はこれでよいのだろうかと幾たびも反芻してきた。遂に甲骨學を眞に學問たらしめるためには、何よりも全資料が正確に把握されることが急務であると痛感し、甲骨學の基礎を作る決心をしたのは、既に十年前のことである。そのためには、單なる卜辭總覽では無意味であり、一字一字に全資料を輯める以外にはなく、これは容易なものでないことを承知して着手した。着手後に新資料が次々に刊行されたので、これを攝取するためには、初めからやり直さねばならず、今日に至るまで三度稿を改めて、漸く完成することができた。これで甲骨學討究の共通の土俵ができ上がったのだと思えば、十年間の苦慘は消えて、新しい出發點に立つときの勇氣を感ずるのである。本書を脫稿した當時は、精魂を傾け盡したという虛脫感が強く、序文を書く氣がしなかったが、序文のない本は頭のない魚のようなもので、恰好のつかないことに思い至り、ここに拙い筆を採った次第である。

一九六七年九月

島邦男

试读结束：需要全本请在线购买： www.ertongbook.com

凡例

本書は、殷墟甲骨文字のすべての文字について、その文字が用いられている全卜辭を綜輯し、これを時代を考慮しつつ、文字の慣用的な結合のしかたに従って分類したものである。本書を綜類と名づけたのはこの綜輯分類の旨によるものであり、その文字が何如に用いられているかを明かにするのが本書の主意であって、そのためにすべての卜辭を殘さず輯めることに努めた。

1　目次について

これは、所收の全文字および先王・先妣・父母兄子の稱謂の目次である。文字の排列については、特に規準というべきものはないが、簡より繁に、類似のものは併記することに努めた。

2　本文について

一　本書は、既刊資料の卜辭を可能なかぎりすべて綜輯分類した。引用の書名および本文における略號は、後付の「本書所引甲骨著錄書目」を參照されたい。

二　庫方二氏藏甲骨卜辭およびそのほかの資料に若干の僞版があるが、明かに僞物と思われるものは採らなかった。

三　干支および數詞の用例は省き、はなはだしく習用されている若干の文字（例えば、卜・貞・旬・王・乎・隹・其・勿・不など）は、節錄にとどめ、これには（節錄）と明記した。

四　書体は、原資料を模寫することに努めるとともに、時代による特色を生かそうとした。

五　卜辭の排列は時代順を主としたが、同一辭例の場合は時代にかかわらず併記した。

六　分類の語彙は文字の結合例のままに從い、ほかに結合例のないものは「其他」の項に收めた。

七　同一版は括項によってその旨を明かにし、原資料の文字の不明確なものは文字の右に?をつけ、缺字あるいは文字の接續に疑問がある場合は……を插入し、缺字の補足ができるものは（　）を施して補った。

3　付錄について

貞人署名版については、貞人名に應じて全資料におけるその所在を示した。また、別に項目をたてて、卜辭整理の過程において氣づいた通用・假借・同義と考えられる用例を記錄した。これらは檢討を要するものであるが、これらの用例を通じて、それぞれの文字の音義を知る手がかりとすることができよう。

4　部首について

說文解字の部首では、甲骨文字を網羅することが困難であるから、獨自の部首を立てて一五九とし、この部首に入らない若干の文字は難索文字として一括した。

5　檢字索引について

部首が用いられている文字のほかに、部首の一部あるいは部首と類似の文字をも收め、どの部首からでも、檢出できるようにした。

増訂版凡例

初版刊行から僅か三年にして、思いがけず再刊することになったので、これを機に、大方の要望を入れて、可能な限りの増補と訂正とをおこなった。増補の主なる點は、ほぼ次の如くである。

1　字釋について

各見出し字の下に、字釋を加えた。各字釋には諸說並存する場合が尠なくないが、いっさい

李孝定『甲骨文字集釋』　中央研究院歷史語言研究所專刊之五十、臺北、一九六五年。

に基づき、該書の解釋に準據した。該書に、說文所無とするもの、異說として揭げるものは、ともに採らなかった。したがって釋字を記入した數は、計八四〇字、全字數の約五分の一に止まっている。字釋に附した數字は李氏書の頁數であるから、それによって諸說を參照されたい。

2　釋字一覽について

前項の釋字を一覽表として附載し、併せて、本書の頁數を記した。

3　漢字索引について

字釋として採用した文字からも檢索が可能なように、これを總畫數によって排列し、本書の頁數および李氏書の頁數を記した。

4　「參照」項の頁數について

初版本では、各見出し字の下の小項目には、しばしば「某字參照」として、重複の煩を避けたが、今回その各參照項に、參照すべき頁數を加えて便宜を計った。

以上の一連の增補により、本書が初版本より著しく利用しやすくなったものと信ずる。

5　『小屯・殷虛文字』甲・乙編の綴合番號の記入について

『小屯・殷虛文字』甲編及び乙編に所收の甲骨版の綴合專著には、甲・乙兩編に亘るものとしては、

㋑郭若愚等『殷虛文字綴合』、北京、一九五五年。　略稱・合、

があり、また甲編のみのものとしては

㋺屈萬里『小屯・殷虛文字』甲編考釋、圖版、臺北、一九六一年。　略稱・甲釋

があり、乙編のみのものとしては、現在までのところ、

㋩張秉權『小屯・殷虛文字』丙編上輯㈠、臺北、一九五七年。
㋥張秉權『小屯・殷虛文字』丙編上輯㈡、臺北、一九五九年。
㋭張秉權『小屯・殷虛文字』丙編中輯㈠、臺北、一九六二年。
㋬張秉權『小屯・殷虛文字』丙編中輯㈡、臺北、一九六五年。
㋣張秉權『小屯・殷虛文字』丙編下輯㈠、臺北、一九六七年。

がある。これらのうち、初版本には、㋑及び㋩を收めただけであるが、今回の增補に際して、㋺及び㋥以下の著錄番號を、甲・乙編の該當卜辭の末尾に附記することとした。㋑に收められながら、初版本で甲、乙編の番號で引用したものの末尾にも、㋑の番號を附記した。甲釋圖版中、甲編以外の著錄中の甲骨と綴合した七版については、それら著錄番號の下には甲釋番號を記入しなかった。

右のほか、これまでに氣付いた本文中の誤りを修正するとともに、本文以外の部分に關しては、構成・排列・內容などに、かなりの修訂を施した。前者の修正箇所は、後付の「初版正誤表」に明らかであるが、後者の修訂については、初版と對校されたい。

以上の增訂は、東京大學東洋文化研究所の松丸道雄氏の努力と東京教育大學の持井康孝君の援助によるところが大であり、その刊行は汲古書院の坂本健彥氏の好意に負うものであって、心から感謝を申し述べたい。細心の努力をしたつもりであるが、缺陷を感じさせる諸點がまだまだ殘されていることであろうし、今後とも多くの指正を望んで止みません。

一九七〇年八月

總目次

自序　〔一〕
凡例　〔二〕
増訂版凡例　〔三〕
總目次　〔四〕
部首　〔八〕
本文目次　〔九〕
本文　一
附錄
五期の稱謂　五五五
世系　五五六

先王先妣祀序　五五六
貞人署名版　五五七
通用・假借・同義用例　五七七
帝辛時甲日の祀譜　五八八
本書所引甲骨著錄書目　五八九
部首　五九〇
檢字索引　五九一
釋字一覽　六〇二
漢字索引　六〇五
あとがき　六〇八
〈附・第一版正誤表〉

殷墟卜辭綜類

部首

（右は檢字索引の頁數
左は本文の頁數）

试读结束：需要全本请在线购买： www.ertongbook.com

目次

先王先妣稱謂

父母兄子稱謂

貞人署名版 五五七

通用同義例 五七七

跋 五八九

殷墟卜辭綜類

文學博士 島邦男編

试读结束：需要全本请在线购买： www.ertongbook.com